

[財]日本太鼓連盟

NIPPON TAIKO FOUNDATION

発行・編集 2001年4月

〒105-0001 東京都港区虎ノ門1-15-16 財団法人日本太鼓連盟

副会長 塩見 和子 Tel.03-3580-9536 Fax.03-3580-8322

URL:<http://www.nippon-taiko.or.jp> Email:info@nippon-taiko.or.jp

会報

ゆふいん源流少年隊がジュニア日本一に ～第3回総務大臣杯日本太鼓ジュニアコンクールを開催(長野県)～



(優勝した大分県代表 ゆふいん源流少年隊)

(財)日本太鼓連盟主催、(財)日本太鼓連盟長野県支部主管による第3回総務大臣杯日本太鼓ジュニアコンクールを3月25日(日)長野県岡谷市のカノラホールにおいて開催いたしました。全国29都道府県(180チーム2200名)から選ばれた33団体340名(平均年齢13.4才・最年少は4才の男子)が出場し、日本一を目指し気迫のこもった演奏を披露し、その腕を競いました。

開会式は、前年度優勝チームと今回出場の全チームがステージに整列したなか行われました。国歌斉唱は大正琴と太鼓の和楽器の組み合わせによる伴奏により行われ、続いて(財)日本太鼓連盟の津田会長、長野県支部の小口支部長の挨拶がありました。また、来賓を代表し、長野県生活環境部の中平部長、岡谷市の林市長の両氏よりご祝辞を頂きました。

前年度優勝チームの天城連峰太鼓(静岡)より津田会長へ優勝旗、優勝杯が返還され、津田会長からは優勝杯レプリカと太鼓一鼓が天城連峰太鼓へ贈呈され、コンクール後の特別演奏の際に早速、その太鼓を叩いていました。

続いて出場者を代表して群馬県の尾瀬太鼓愛好会の笠原さゆりさんが「日本の伝統文化である太鼓を通じて、友情とふれあいを高め、力いっぱい演奏す

ることを誓います」と力強い宣誓を行い、当財団小口副会長による「初っ切り太鼓」でコンクールが開始されました。

好天に恵まれ、会場は約1300名の観客で埋まりました。郷土を代表して各チームとも素晴らしい演奏を披露し、場内から大きな拍手と声援を受けていました。

出場した33団体は、コンクール審査要領に基づき5分間に課題曲(小口大八氏作曲「日本のひびき21」と自由曲を演奏しました。本コンクールは、技を競うだけでなく、礼節など人間形成を図る教育の場となることを目的としているため、6名の審査委員が礼節・衣装、構え・打法、演奏技術、音楽表現、チームワークの5項目を審査しました。

今回のコンクールから、出場チームの意に沿い、さらに厳正な審査を行うため、当財団の技術委員会の委員が加わり、課題曲の指示事項のチェック、好評の取りまとめを行いました。この講評は、出場チーム全てへ送付することになっております。



(尾瀬太鼓愛好会の笠原さんによる選手宣誓)

閉会式では、コンクールの全体的な印象について塩見審査委員長より、マナーや礼節が大変よくなり、教育の場としての成果が着実にあがってきている。また、技術的な点に関してはジョージ・川口審査委員より、回を重ねるごとに技術レベルが上がり、かなりの激戦であったとそれぞれ講評がありました。

続いて審査結果が「別表」のとおり発表され、優勝したのは子供らしくきびきびとした演奏で大きな拍手を浴びた大分県代表のゆふいん源流少年隊（小学生8人）でした。

また、翌日の26日には特別講習会が行なわれました。これは、ジュニアコンクール出場団体のチームクリニックとして今回から実施したものです。希望のあったみのり太鼓（茨城）、枕崎火の神乙女太鼓（鹿児島）、雨鳴太鼓保存会（山梨）の3チームが財団技術委員から基本を中心とした厳しい講習を受けました。また、各チームの指導者も特別講習会に参加し、今後の指導に活かしていきたいとの感想がありました。

本コンクールにおいて、お忙しいなか、厳正な審査をしていただいた審査委員の先生方、開会式で素晴らしい演奏をしていただいた大正琴の演奏者の方々、また、審査の間、観客を魅了する演奏を披露していただいた特別出演チームの方々、全国より町ぐるみで応援に来て下さった父兄の皆様、そして本コンクールの開催に大変お骨折りいただいた長野県支部の役職員の皆様並びに200名のボランティアの方々に心より感謝とお礼を申し上げます。

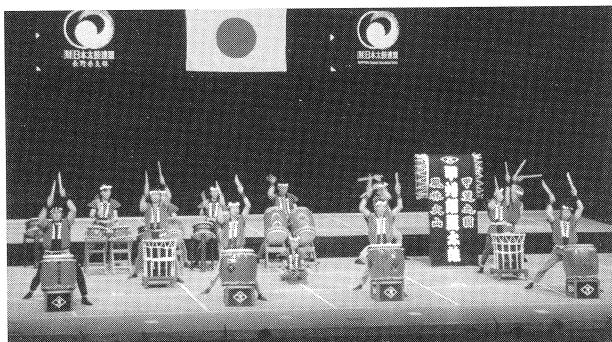
*なお、次回第4回大会は、2002年3月24日（日）に福島県郡山市において開催を予定しています。

特別出演

天城連峰太鼓 (前年度優勝チーム)	(静岡)
御諏訪太鼓保存会	(長野)
甲州ろうあ太鼓	(山梨)
上諏訪駅前本町二丁目龍神会	(長野)

審査委員（五十音順・敬称略）

池田 庄作	財団副会長
塩見 和子	審査委員長・財団副会長
ジョージ・川口	ドラマ
中西 智子	三重大学教授
西角井正大	実践女子大学教授
古屋 邦夫	財団技術委員長



（特別出演で熱演する甲州ろうあ太鼓）

■入賞チーム■

優 勝	ゆふいん源流少年隊	(大 分)
第2位	手取亢龍若鮎組	(石 川)
第3位	鬼島太鼓	(長 野)
第4位	和紙の里 和雅美太鼓	(福 島)
第5位	上総の国 房州太鼓	(千 葉)

■特 別 賞 ■

- 長野県教育委員会賞
人吉ねぶか太鼓（熊本）
- 岡谷市長賞
みのり太鼓（茨城）
- 諏訪市長賞
小城太鼓小天狗（佐賀）
- 岡谷市教育長賞
信州安曇野穂高太鼓子供会（長野）
- 岡谷商工会議所会頭賞
越中いさみ太鼓保存会（富山）
- 岡谷市観光協会会长賞
高野右吉と秩父社中（埼玉）
- 諏訪市観光協会会长賞
三刀屋太鼓Jr.（島根）
- エルシーブイ賞
広島山陽高等学校音楽部「弾」（広島）
- 長野県太鼓連盟名誉会長賞
おおむら太鼓連くじら太鼓（長崎）
- 諏訪響太鼓店社長賞
相州平塚七夕太鼓保存会（神奈川）

第3回日本太鼓ジュニアコンクールを終えて

日本太鼓ジュニアコンクール事務局 松枝 明美

嵐のように過ぎ去った大会でした。昨年3月石川県での大会を視察後、9月に内容説明の会議が開催され、その後幾度となく重ねられた分科会を経て、全国から出場者・審査委員・一般のお客様を迎える事ができ、ホッと胸をなで下ろしております。

会場がホールということもありますので、皆様方には厳しい条件や不都合な面が多々あったかと存じますが、何らかの形で皆様の頭の中に「長野県」の印象を残して頂けたら嬉しい限りです。29都道府県33団体の子供たちの見事な演奏をご来場の方々は、びっくりされていました。将来、素晴らしい打ち手、そして指導者に成長して欲しいと陰ながら思っています。

最後にスタッフの皆さん、本当に疲れ様でした。皆さんの責任感の強さ・団結力に感謝すると共に敬意を表します。そして財団をはじめ、多大なるご協力を賜りました皆様に心よりお礼申し上げます。来年の開催地福島県での大成功をお祈りいたします。

第3回日本太鼓ジュニアコンクールで優勝して ゆふいん源流少年隊 指導者 長谷川 義

ゆふいん源流少年隊は、3月25日（日）長野県岡谷市において開催されました「第3回総務大臣杯日本太鼓ジュニアコンクール」に、第2回大会に続き、出場させていただきました。

出場決定の日から、ほぼ毎日の練習を正しい姿勢とバチさばきを重点に、特に小学生らしいしっかりした挨拶や身のこなし、毅然とした態度がとれるよう、万全を期し指導してまいりました。

全国的にジュニアのレベルが高くなっているなかで、時にはくじけそうになりながら、それでも真摯な態度で太鼓に向かう子供たちへ日本太鼓のもつ「日本の心」、「郷土の心」を伝え、そして、世界に誇れる日本太鼓の歴史を車座になって話しながらの取り組みでした。また、高校生まで出場資格のある大会で、小学生だけのチームであることも、逆に励みになりました。

コンクール当日は、出場者同士の気持ちの良い挨拶を交わす姿にすがすがしさを感じながら、33チームの演奏をつぶさに見せていただきましたが、それぞれのチームに練習の積み重ねを感じることができ、各チームとも素晴らしい出来栄えで、僅差での優勝であったと思います。それだけに達成感に満ちた子供達の笑顔からもらった感動は、父兄も指導者も言葉では表現できないものがありました。

今後は、優勝して頂点に立ったことを奢ることなく日本の伝統芸能（日本太鼓）の伝承と青少年の健全育成にこれまで以上に取り組んでまいります。また、礼節を最重点に、演奏技術や音楽表現の練習を重ね、2年後（第5回大会）の優勝を目指して、チームワークのある子供たちに育てていきたいと思います。

終わりに、本コンクールの開催にご尽力されました財団法人日本太鼓連盟をはじめ、財団法人日本太鼓連盟長野県支部並びに関係者の皆様方に深く敬意を表し、お礼の言葉といたします。

日本太鼓と学校教育—⑤

今回は、（財）日本太鼓連盟静岡県支部長であり、富岳太鼓の代表者である山内強嗣氏から、学校教育に和楽器が導入されることについて寄稿していただきました。

太鼓と学校教育

平成14年、学校教育の音楽の授業に和楽器が導入されるという。確かに文部省の掲げたこの政策自体は素晴らしいことだ。国際化を迎えた現代社会で、一番大切なことは自分の国に誇りを持つことだと思う。自国を知らずして、他国と語れず。学校教育のなかで日本文化を取り入れることは大変良いことだ。体育の授業でも、国技の相撲などを正式に取り入れることも面白いかもしれない。

しかし私が考えるに、問題はその後にある。音楽の授業に取り入れることまでは良いが、そのフォローが問題だ。教職員を目指す学生の授業に、太鼓や琴や三味線が取り入れられたか。生徒に教えるのなら楽器は選択としても、必修科目としてしっかりと知識と技術を持って、教育現場へ送り出すべきではないだろうか。また、現職の教員に対して研修制度が設けられたかである。一番大変な思いをしているのが現場の教員である。通達はされたが、後はかってに考えるとでも言うのだろうか。最近、私たちが主催するワークショップの参加者に、小学校の教員が増えた。以前は障害者施設の指導員や保育園の保育士、学生が多くたが、やはり音楽の授業に

富岳太鼓代表 山内強嗣

導入されるということでの参加らしい。そして、参加者の多くが求めるのが、基本も身につけていないのに、生徒達と一緒に打てる曲を教えて欲しいという。たった1日の講習でだ。これでは本当の日本太鼓は何も子供達に伝わらない。太鼓打ちとしてはとても悲しい。

私は、太鼓を障害者のセラピーとして導入している。基本的理念は「太鼓を学ぶにあらず、太鼓で学ぶ」である。

曲が打てるとか、太鼓が上手いということはやる以上は大切だが、太鼓を通して礼儀作法、人とのつき合い方、生きる喜びなどを学ぶことの方が、もっと大切だと考えている。学校教育においても、にわか仕込みの指導者が消化不良の授業をするのではなく、太鼓の持つ本来の良さを充分に活用することを願って止まない。

今、日本太鼓を取り巻く世界に、新たなムーブメントが興ろうとしている。私もこの時流のなかで、自分を見失わず、自分に何ができるのかをしっかりと見極め、日本太鼓をこよなく愛するひとりとして貢献できればと思っている。

スーダン、アラブ首長国連邦、バハレーンで公演 ～財団設立以来、海外公演は今回で23カ国目に～

国際交流基金が各国の現地公館からの要望を受け、日本太鼓の公演を実施することになり、同基金の要請に基づき当財団として太鼓チームの派遣協力を行いました。

2001年2月1日から25日までの約3週間にわたってスーダン、アラブ首長国連邦(アブダビ、ドバイ)、バハレーンに宮崎県の橘太鼓「響座」(代表・岩切邦光氏)を派遣いたしました。

本公演は、スーダンで2回、アブダビで3回、ドバイで2回、バハレーンで2回の計9回行いました。いずれの会場でも多くの人が集まり、日本太鼓独特の音色、音の大きさ、演奏者の規律・スピードなどに驚き、大きな拍手と声援を受けるなど熱狂的な歓迎を受けました。日本大使館、日本総領事館並びに日本人学校の関係者は、観客の反響の大きさとその成果に大変喜んでおりました。

一方、海外で生活している日本の子供達や現地の子供、大学生に日本の伝統文化である日本太鼓を紹介するため、アブダビ、ドバイの日本人学校とアブダビの現地公立小学校、バハレーン大学で太鼓教室を開き、それぞれのステージで生徒や先生に対し太鼓の指導を行いました。非常に好評で学校関係者も太鼓に大変興味をもったようでした。特に、ドバイ日本人学校では近くの養護施設から障害者の人たちも見学にこられ、日本人の生徒たちと一緒にになって嬉しそうに太鼓を叩いていたのが印象的でした。

なお、今回の一連の公演は、1997年11月の当財団設立以来10回目に当たり、公演した国はこれまで23カ国になります。

<派遣メンバー>

■橘太鼓「響座」(宮崎県)

岩切邦光(代表)、松野力也、松野二久、

西口 勝、小西舞美

■財団法人 日本太鼓連盟

塩見和子(副会長)、小野 翼(常務理事)



(スーダン・ハルツームでの太鼓公演)



(障害者を交えての太鼓教室：ドバイ日本人学校)

初めての海外公演を終えて

橘太鼓「響座」 西口 勝 (18才)
小西 舞美 (16才)

初めての長期海外公演でしたが、各において歴史、文化、風土、食物などを肌で感じながらの25日間のツアーを終え、多くの事を学び感動を新たにしました。

スーダンの野外ステージでの演奏はとても暑く、日が沈むとともに何処からとなく人が集まり、観衆の熱気を肌で感じ、飛び交う声援に嬉しさと身の引き締まる思いがしました。また、地元民族楽器団との共演を行いましたが、民族の違いによるリズムの差に戸惑いを感じました。しかし、練習を重ねるうちにその戸惑いも次第に吹っ切れ、終わってみれば心地よいステージでした。生まれて初めて広大な砂漠でラクダに乗せてもらい、いい思い出をつくることもできました。

アラブ首長国連邦のアブダビでは、公演終了後、情報文化大臣にミニチュアの太鼓を贈呈したときには、大変喜ばれ「素晴らしい、また来て下さいね」との言葉を頂き本当に感激しました。

ドバイの日本人学校では障害を持つ現地の子供を招待しての公演でした。初めは心配しましたが、リズム感の素晴らしさには驚きました。持って生まれた天性のものだと思いますが、それを観た日本人学校の生徒たちが感動していたことに感銘を受けました。

最後の公演地であるバハレーンは、チームみんなの疲労がピークに達していましたが、悔いのない最後の舞台にしようとリハーサルにも力が入り、自分たちにとって最高にいい仕上げとなる演奏でした。

今回の公演では、多くの人と知り合い、その国の生活や習慣など厳しさも学ぶことができました。やっぱり日本が一番いいなと実感しました。

第10回日本太鼓全国講習会(栃木県鹿沼市)を開催 ～全国各地より270名が参加～



(4級基本講座講習模様)

第10回日本太鼓全国講習会が栃木県鹿沼市の栃木厚生年金休暇センターを中心に行われました。

講習会には全国各地より270名の受講生が参加しました。また、同日程で公認指導員更新研修会が行なわれ、76名の公認指導員が更新手続きのために参加しました。

今回の講習会では、改訂したばかりの「日本太鼓教本」を購入する受講生が多く見られました。また、公認指導員のなかには、前回の教本との違いを見比べている人もいました。

開会式は、財団を代表して小口副会長、主管団体より片庭支部長の挨拶、続いて矢野哲郎参議院議員、渡辺南汪鹿沼市助役より歓迎の言葉がありました。

小雨の降るなか、講習は一流の講師による厳しい指導が行なわれ、受講生は、2日間で相当な技術を習得いたしました。

閉会式では、海外出張を終えたばかりの塩見副会長より挨拶がありました。閉会式終了後、新たに公認指導員に認定された方の認定授与式が行われました。

式場、先の運営委員会において認定された、1級公認指導員の鹿児島県の松元和敏氏、栃木県の2級公認指導員の片庭栄次、鈴木勲雄氏の両氏、3級公認指導員の矢部興一氏、鈴木菊男氏、川俣弘子氏、上龍氏の各氏に塩見副会長、小口副会長からそれぞれ認定証・バッヂが授与されました。また、従来秋田県太鼓連盟が独自に公認していた指導員を財団の



(認定証授与式)

指導員へ切り替えることとなり、研修会及び講習会に参加することを条件としていた指導員(30名)が3級公認指導員28名と1級技術認定員2名にそれぞれ認定され、両副会長から認定証とバッヂが手渡されました。

○専門講座

御諏訪太鼓講座

講師 小口大八氏

八丈太鼓講座

講師 菊池修氏

締太鼓講座

講師 鈴木孝喜氏

○基本講座

3級基本講座

講師 松枝明美氏

4級基本講座

講師 安江信寿氏

5級基本講座

講師 古屋邦夫氏

■技術認定員検定試験の結果は次のとおりです。

1級検定 10名受験 6名合格 (1名認定)

2級検定 19名受験 11名合格 (4名認定)

3級検定 79名受験 71名認定

4級検定 49名受験 48名認定

5級検定 85名受験 85名認定

○以上の結果、各級の技術認定員数は次の通りです。

1級 5名、2級 20名、3級 126名、

4級 264名、5級 1,156名となりました。

技術認定員総数は 1,571名となります。

第3回公認指導員更新研修会を開催

今年度の一連の更新研修会が最後の開催となりました。このため、更新研修会未参加者121名のうち、76名の公認指導員が全国より集まりました。

研修会終了後、公認指導員の皆さんには、指導者の必要性や指導方法のあり方の重要性について、再認識していました。

○研修会内容

太鼓界の現状と今後

講師 小口 大八氏

太鼓の歴史と特性

講師 西角井正大氏

「鎮魂の太鼓」演奏指導

講師 古屋 邦夫氏

指導者としての心構え

講師 小口 大八氏



お知らせ

栃木県鹿沼市で開催された「第10回日本太鼓全国講習会」の模様がテレビ放映されます。
放送局・番組名 レジャーチャンネル1 (CS放送) SKYPerfecTV ! /ch380 「情報360° WIDE」
放送日時 2001年4月8日、15日、22日、29日(毎週日曜日19:00~19:30)

●第12回運営委員会を開催● ～2001年1月18日(木)・東京～

【2000年度事業の実施報告と今後の予定】

「第3回日本太鼓ジュニアコンクールについて」

- 2001年1月6日の省庁再編に伴い、これまでの自治大臣杯から総務大臣杯へ名称が変更した旨の報告を行った。
- 審査委員候補者の選任について資料を基に諮り、特に異議がなく了承された。
- 出場順番を決めるため、運営委員により厳正な抽選を行い決定した。

「2001年度日本太鼓助成金交付について」

- 初めての申請となる事業を優先し、北海道、岩手県、千葉県、東京都、山梨県、岐阜県、兵庫県の7事業を決定した。
- ジュニアコンクール予選大会が予算的に厳しいことを考慮し、神奈川県、熊本県、鹿児島県の3県が実施する予選大会3事業を決定した。
- 残りの6事業について事業内容等を検討した。しかしながら、予め支部において精査したうえで申請があったもので、公正を期すため残りの交付金額を6事業で均等に分けて交付することとした。
- *日本財団へは、2001年度日本太鼓助成金交付事業を16事業(2000年度は12事業)で申請していたが、このたび、内示があり申請通り16事業に増えることとなった。従って、残りの事業に対しても、従来通り1事業20万円を交付することとした。

「公認指導員の認定について」

- 2級公認指導員の松元和敏氏(鹿児島県)が昇級昇級の条件を満たしたことから1級公認指導員に認定した。
- 2級公認指導員に片庭栄次、鈴木勲雄氏の両氏、3級公認指導員に矢部興一、鈴木菊男、川俣弘子、上龍の各氏を認定
新規支部の栃木県より推薦のあった6名について、全国講習会に参加した結果、それぞれ認定することとした。
- 秋田県支部指導者を3級公認指導員(31名)、1級技術認定員(2名)に条件付きで認定
秋田県支部が独自に実施している制度を、財団の資格認定制度に切り替えることについて検討した。財団設立10年前より実施されていること、制度の内容が厳格に行われていること、切り替えに際し各自の現状を把握した後に候補者を選定して

おり、更に、昨年11月に秋田県で行なわれた全国講習会に参加していることをふまえ検討した。その結果、条件とし当財団の指導方法を徹底するため、再度、栃木県で実施する全国講習会の5級基本講座並びに公認指導員更新研修会に参加した後、それぞれ認定することとした。

「特別会員(広島県山陽高等学校)の入会について」

当財団への入会を強く希望しており、第3回総務大臣杯日本太鼓ジュニアコンクールへ出場したいとの要請に基づき、検討した結果、入会を了承することとした。なお、コンクールの出場については、広島県は支部が未開設であるため、チームの実情を把握すべく技術委員長の古屋氏に課題曲等の指導を兼ねて、調査を依頼し、判断することとした。

また、特別会員のあり方について見直すべきとの意見とともに、これまでの会員とは別に、ジュニア会員制度を設置すべきという意見もあり、今後、検討していくこととした。

「日本太鼓全国フェスティバル開催実施要綱の検討について」

次のような意見があった。

- 各地で実施しているフェスティバルとの相違を明確にすべきである。
- プロの舞台演出家に依頼し、技術委員や事務局スタッフがその演出を学び今後の活動に生かすことを検討していく。

「その他について」

①公認指導員更新研修会不参加者について

2000年度の全国講習会に併せて実施している「公認指導員更新研修会」の参加状況の説明があった。更新研修会参加対象者186名のうち、熊本県、秋田県では研修会には65名しか参加していない。このため、栃木県に参加すべき121名のうち、不参加者が出了した場合の処遇について検討した。この結果、参加状況を再度、確認したうえで次回の運営委員会で検討することとした。

②日本太鼓教本の販売金額について

現在、改訂作業を進めている日本太鼓教本の完成に伴い、販売価格を一般2,000円、会員1,500円とすることとした。

③公認指導員推薦者の全国講習会受講について

● 第9回技術委員会を開催 ● ～2001年3月25日(日)・長野～

「日本太鼓ジュニアコンクールについて」

①課題曲について

今回のコンクールでは、演奏時間並びに課題曲の正確な奏法と使用楽器等をチェックした。演奏時間は規定通りであったが、トレモロの奏法と使用楽器が指定した通りでないチームが33チーム中8チームもあった。当該チームには違反内容を通達するとともに、今後は出場チームの指導者に対し、予め指示事項の徹底を図ることとした。

また、これまで演奏時間オーバーは失格となっているが、今回は課題曲の指示事項違反が多くみられた。このため、今後、課題曲指示事項の違反については、減点または失格とするなど採点を明確にしていくこととした。

「公認指導員認定の承認について」

下記の承認された者については、運営委員会に諮り、認定することとなる。

①公認指導員の昇級について

3級公認指導員の斎藤通夫氏(福島県)の2級昇

級、1級技術認定員の高島奈々、高島笑美(岐阜県)の3級昇級

いずれも昇級の条件を満たしたため、承認された。

②公認指導員推薦者の認定について

・1級公認指導員推薦の塚原茂夫氏(北海道)

2級公認指導員推薦の堀江富男氏(静岡県)

3級公認指導員の上敬夫氏、小室忠史氏(栃木県)

上記の者については、全国講習会に参加した結果、いずれも承認された。

③公認指導員の新規推薦者について

・1級推薦の田中誠一氏(米国)については、海外における30年の指導の実績を考慮し、承認された。ただし、財団の指導方法を徹底するため、来日の機会を捉えて全国講習会へ参加する旨を要請することとした。

・2級推薦の橋本光司氏(北海道)、3級推薦の進藤喜一郎氏(山形)、加藤修氏、緒方英好氏(神奈川)については、これまでと同様に指導力を判断するため全国講習会に参加した時点で判断することとした。

公認指導員の資格喪失について

今回で最終回となる公認指導員更新のための研修会(5月・熊本県、11月・秋田県で実施)が、2001年2月24日・25日(栃木県)に実施されました。この更新研修会の対象者は、公認指導員186名(1級18名、2級69名、3級99名)で、結果として一連の更新研修会に参加されなかった方は45名でした。そのうち、残念ながら、更新辞退により公認指導員の資格を喪失した方は下記の通り23名となっております。

○2級公認指導員辞退者(7名)

2-001・竹内幸夫氏(島根)、2-003・関刀鼓氏(岐阜)、2-039・宮田昇氏(石川)、2-067・烏丸正信氏(鹿児島)、
2-068・川上真一氏(鹿児島)、2-069・平川泉水氏(鹿児島)、2-070・小田サチ氏(鹿児島)

○3級公認指導員辞退者(16名)

3-005・菊池長氏(岩手)、3-015・田中多江子氏(青森)、3-016・真島裕氏(山形)、3-024・志田さえ子氏(山形)、
3-031・宮下朗氏(長野)、3-035・小平光一氏(千葉)、3-037・今井美子氏(千葉)、3-044・増田雅昭氏(福井)、
3-051・佐藤康明氏(福島)、3-056・藤生智子氏(群馬)、3-074・村中良和氏(石川)、3-077・上原富夫氏(長野)、
3-084・河合光夫氏(岐阜)、3-097・石井祐実氏(京都)、

*3-027・渡辺弘正氏(神奈川)、*3-038・安藤武弘氏(静岡県)、

(*印は、移転先不明により連絡がつかないため、支部と検討した結果辞退となりました。)

なお、更新は希望しているものの、何らかの理由で参加できなかつた方22名につきましては、技術委員会並びに運営委員会において検討いたします。

第5回
日本太鼓全国
フェスティバル
出場団体募集

第5回日本太鼓全国フェスティバルが2001年9月2日(日)に北九州博覧祭2001に併せて、福岡県北九州市の北九州メディアドームにおいて開催されます。
出演を希望される団体は、支部または財団事務局までお問合せ下さい。

- 期　　日　　2001年9月2日(日)
- 場　　所　　北九州メディアドーム(福岡県北九州市)
- 主　　催　　財団法人日本太鼓連盟
- 主　　管　　全九州太鼓連合、(財)日本太鼓連盟福岡県支部
- 出演団体　40団体程度

2001年度日本太鼓助成金交付事業決定のお知らせ

日本太鼓助成金は運営委員会において審議の結果、下記の16事業が承認され、決定いたしました。

- (1) みやざきジュニア太鼓フェスティバル（宮崎県支部）
4月29日（日）こどものくに（宮崎県宮崎市）
- (2) 日本太鼓支部講習会（全九州太鼓連合・大分県支部）
6月23日（土）・24日（日）湯布院町立スポーツセンター（大分県湯布院町）
- (3) 日本太鼓支部講習会（京都府支部）
7月20日（祝）・21日（土）井手町自然休養村管理センター（京都府井手町）
- (4) 第4回日本太鼓ジュニアコンクール千葉県選抜競技大会（千葉県支部）
7月28日（土）野菜アリーナ（千葉県匝瑳郡）
- (5) 長野県教職員・日本太鼓講習会（長野県支部）
7月・11月予定 岡谷市民会館ほか（長野県岡谷市）
- (6) 第1回兵庫県太鼓ジュニアフェスティバル・第4回日本太鼓ジュニアコンクール予選会（兵庫県支部）
8月19日（日）福祉会館ふれあい（兵庫県新宮町）
- (7) 第19回岐阜県少年太鼓まつり・第4回日本太鼓ジュニアコンクール岐阜県予選大会（岐阜県支部）
8月19日（日）岐阜市文化会館（岐阜県岐阜市）
- (8) 2001いわて太鼓フェスティバルinくずまき（岩手県支部）
9月30日（日）葛巻町社会教育会館（岩手県岩手郡）
- (9) 第4回日本太鼓ジュニアコンクール釧路地区予選大会（北海道・釧根支部）
10月7日（日）標津町文化ホール（北海道釧路市）
- (10) 第4回日本太鼓ジュニアコンクール熊本県予選会（熊本県支部）
10月21日（日）熊本市民会館（熊本県熊本市）
- (11) 第4回日本太鼓ジュニアコンクール鹿児島県予選会（鹿児島県支部）
10月28日（日）みやまコンセール（鹿児島県牧園町）
- (12) 石川県立音楽堂完成記念第12回石川の太鼓（石川県支部）
10月28日（日）石川県立音楽堂（石川県金沢市）
- (13) 第4回日本太鼓ジュニアコンクール神奈川県予選会（神奈川県支部）
10月28日（日）平塚市立市民センター（神奈川県平塚市）
- (14) 第13回山梨太鼓フェスティバル（山梨県支部）
11月23日（祝）須玉町農村総合交流ターミナルふれあい館（山梨県須玉町）
- (15) 日本太鼓支部講習会（東京都支部）
2002年1月26日（土）・27日（日）大森スポーツセンター（東京都大田区）
- (16) 日本太鼓支部講習会（秋田県支部）
2002年2月9日（土）・10日（日）ふれあい文化センター（秋田県仙北町）

各地のたより

- 4月14日（土）・15日（日） 関東一の太鼓祭・感動成田劇場第13幕（千葉県）
<主催：感動成田劇場実行委員会、会場：成田山新勝寺・表参道>
- 4月22日（日） 豊岡和太鼓フェスティバル（兵庫県）
<主催：豊岡こうのとり太鼓、会場：兵庫県豊岡市民会館（文化ホール）>
- 4月22日（日） 穂波川筋太鼓10周年記念公演「伝響」（福岡県）
<主催：川筋太鼓保存会、会場：飯塚コスモスコモン大ホール>
- 5月3日（祝） 禅海春の太鼓まつり（大分県）
<主催：禅海春の太鼓まつり実行委員会、会場：元耶馬溪町レストハウス特設ステージ>
- 5月3日（祝）～5日（土） 神戸21世紀海響祭（兵庫県）
<主催：神戸21世紀海響祭実行委員会、会場：ポートアイランド2期芝生広場特設会場、ワールド記念ホール>
- 5月6日（日） 勤労障害者長崎打楽交流団 瑞宝太鼓旗揚げコンサート（長崎県）
<主催：勤労障害者長崎打楽交流団 瑞宝太鼓、会場：長崎市民会館>